

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

「外科手術患者向け冊子」作成の進捗報告

研究協力者 長堀正和 東京医科歯科大学附属病院 消化器内科 特任准教授

研究要旨：近年の炎症性腸疾患（IBD）の内科治療の進歩にもかかわらず、現在においても、外科手術は IBD における重要な治療選択肢の一つである。しかし、IBD の外科手術に関する患者および家族を対象とした適切な情報は乏しく、また、炎症性腸疾患を診療する内科医においても、手術に関する情報を適切に患者に提供できない場合、適切なタイミングで外科手術が行われず、患者が術後に不幸な転帰をたどる一因となっている可能性があると思われる。今回、「外科手術患者向け冊子」（名称未定）を作成し、外科手術を要する IBD 患者の手術に関する決定をサポートすることも目指したい。本冊子作成のワーキンググループを選定し、来年度には冊子をして刊行する他、研究班ホームページ上から誰でもダウンロードできるようにする。

共同研究者

畑 啓介（東京大学腫瘍外科）

内野 基

（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座外科部門）

東 大二郎（福岡大学筑紫病院外科）

水島恒和（大阪大学消化器外科）

木村英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター IBD センター）

高橋賢一（東北労災病院大腸肛門病センター）

小金井一隆

（横浜市立市民病院炎症性腸疾患科）

杉田 昭

（横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター）

鈴木康夫

（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

B. 研究方法

本研究班の班員の外科医を中心とした作成メンバーを選定し、以下の項目に関する執筆を分担した。

- 潰瘍性大腸炎患者です。私が手術になる可能性はどのくらいですか？
- 潰瘍性大腸炎患者です。どのような時に手術が必要になりますか？
- 潰瘍性大腸炎の手術はどのようなものですか？
- 潰瘍性大腸炎患者です。手術の合併症にはどのようなものがありますか？
- 潰瘍性大腸炎患者です。手術後の生活はどのようにになりますか？
- 潰瘍性大腸炎患者です。手術をすれば病気は治ったことになるのでしょうか？（回腸の炎症や腸管外合併症について記載）
- クローン病患者です。私が外科手術になる可能性はどのくらいですか？
- クローン病患者です。一度、手術を受けた場合、再度、手術になる可能性はどのくらいですか？

A. 研究目的

患者および家族に IBD の外科手術に関する正確な情報を提供し、一般医や炎症性腸疾患を専門とする内科医にとっても、患者とのコミュニケーションツールとして活用しうる小冊子を作成する。

- クロウン病患者です。再発をしないためにできることを教えてください。(禁煙、薬物治療、画像検査の重要性について記載)
 - クロウン病患者です。どのような時に手術が必要になりますか？
 - クロウン病患者です。腸の手術にはどのようなものがありますか？(形成術や人工肛門も含む)
 - クロウン病患者です。肛門の手術にはどのようなものがありますか？
 - クロウン病患者です。手術の合併症にはどのようなものがありますか？
 - クロウン病患者です。手術後の生活はどのようなになりますか？
-
- 手術後に妊娠や出産はできますか？
 - 人工肛門のケアについて教えてください。
 - 人工肛門のケアに関する費用が心配です。どのような支援がありますか？(身体障害者手帳について記載)

また、外科手術においては、解剖学用語、「狭窄」などの外科的合併症、「吻合」などの手術用語など、患者および家族には難解な用語が、コミュニケーションの妨げになることがあり、それらの用語に関する「用語集」を添付する予定である。

(倫理面への配慮)

特になし

C. 研究結果

本冊子の分担執筆はほぼ終了し、来年度には冊子として刊行予定である。また、同冊子を、研究班ホームページ上に公開し、患者および家族や一般医が誰でも入手できるようにする。

D. 考察

作成した冊子の普及方法については、班員施設で活用を促すことはもちろんであるが、

本冊子をアップする予定の HP の存在を含めて、全国 of 患者およびその家族、同時に、一般医にこの冊子に関する情報をどのように周知していくかの検討が必要と思われた。

E. 結論

来年度には本冊子を作成、刊行を行い、班員施設での使用はもちろんのこと、研究班 HP から、誰でもダウンロード可能とすることで、患者および家族への外科手術に関する啓発および主治医とのコミュニケーションツールとしての活用を促進していきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Fujioka T, Matsuoka K, Naganuma M, Watanabe M: Correlation of the endoscopic and magnetic resonance scoring systems in the deep small intestine in Crohn's disease. Inflammatory bowel disease. 21(8):1832-1838, 2015
- 2) Matsuoka K, Saito E, Fujii T, Takenaka K, Kimura M, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Tacrolimus for the Treatment of Ulcerative Colitis. 13(3):219-226, 2015
- 3) Nagaishi T, Watabe T, Jose N, Tokai A, Fujii T, Matsuoka K, Nagahori M, Ohtsuka K: Epithelial NF- κ B Activation in Inflammatory Bowel Diseases and Colitis-associated Carcinogenesis. Digestion. (in press), 2015
- 4) 大塚和朗、竹中健人、長堀正和、松岡克善、藤井俊光、齊藤詠子、渡辺 守:【下部消化管:炎症からの発癌】炎症発癌の診断 小腸

の サ ー ベ イ ラ ン
ス. Intestine. 19(4):381-384, 2015

2. 学会発表

- 1) Fujii T, Takenaka K, Kitazume Y, Saito E, Matusoka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Modifying and validating endoscopic and magnetic resonance scoring systems for the deep small intestine in Crohn's disease. The 3rd Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis (AOCC). Beijing. 2015年6月19日
- 2) Fujii T, Takenaka K, Kitazume Y, Saito E, Matusoka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Modifying and validating endoscopic and magnetic resonance scoring systems for the deep small intestine in Crohn's disease. DDW2015. Washington, DC. 2015年5月17日
- 3) Nagahori M, Fujii T, Saito E, Matsuoka K, Ohtsuka K, Watanabe M, TMDU UC Cohort Study Group: The prognosis of ulcerative colitis patients who are treated with corticosteroid in an academic inflammatory bowel disease center and community hospitals. DDW2015. Washington, DC. 2015年5月16日
- 4) 柴田 勇、荒木昭博、福田将義、岡田英理子、藤田めぐみ、櫻井 幸、根本泰宏、新田沙由梨、野崎賢吾、福島啓太、北畑富貴子、東 正新、大岡真也、土屋輝一郎、長堀正和、中村哲也、朝比奈靖浩、大塚和朗、渡辺 守: Dieulafoy 潰瘍様の内視鏡所見を呈した小腸動静脈奇形の一例. 第101回 日本消化器病内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2015年12月12日
- 5) 武市瑛子、大谷賢志、藤井俊光、松岡克善、櫻井 幸、藤田めぐみ、野崎賢吾、福田将義、根本泰宏、井津井康浩、中川美奈、東 正新、土屋輝一郎、大岡真也、長堀正和、渡辺 守、荒木昭博、大塚和朗、柿沼 晴、朝比奈靖浩: 潰瘍性大腸炎に対する infliximab 投与により間質性肺炎が誘発されたと考えられる一例. 日本消化器病学会関東支部第 337 回例会. 東京. 2015年12月5日
- 6) 竹中健人、大塚和朗、北詰良雄、福田将義、野崎賢吾、岩本史光、木村麻衣子、藤井俊光、松岡克善、長堀正和、渡辺 守: クロウン病小腸病変に対するバルーン内視鏡および MRI 所見. 第 53 回小腸研究会. 東京. 2015年11月7日
- 7) 長堀正和、河内修司、花井洋行、山本隆行、中村志郎、渡辺 守、日比紀文: 活動期及び寛解期潰瘍性大腸炎における経口 5-ASA 製剤治療に関する実態調査. JDDW2015. 東京. 2015年10月10日
- 8) 小林小の実、遠藤 南、重田綾子、飯塚和絵、伊東英里、望月奈穂子、酒井英樹、長堀正和、渡辺 守: アザチオプリン投与例における 6-TGN 濃度の検討. JDDW2015. 東京. 2015年10月10日
- 9) 大塚和朗、長堀正和、渡辺 守: 炎症性腸疾患における内科・外科間の治療連携 クロウン病治療における生物学的製剤と内視鏡治療・外科手術. JDDW2015. 東京. 2015年10月8日
- 10) 堤 大樹、秋山慎太郎、松岡克善、和田祥城、北畑富貴子、福島啓太、水谷知裕、新田沙由梨、藤井俊光、岡田英理子、大島 茂、岡本隆一、東 正新、土屋輝一郎、永石宇司、長堀正和、中村哲也、朝比奈靖浩、渡辺 守: 鋸歯状病変を合併した潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の一例. 日本消化器病学会関東支部第 336 回例会. 東京. 2015.09.26
- 11) 引山智香、大谷賢志、勝倉暢洋、藤井俊光、松岡克善、水谷智裕、大島茂、土屋輝一郎、岡本隆一、東正新、永石宇司、長堀正和、荒木昭博、中村哲也、渡辺 守、岡田英理子、福田将義、大塚和朗、渡辺 健、石田信也: クロウン病で免疫調節薬による加療中に好中球減少を認め、自己免疫性無顆粒球症と診

断した一例.日本消化器病学会関東支部第
335 回例会.東京.2015 年 7 月 18 日

- 12) 秋山慎太郎、大岡真也、水谷知裕、松岡克善、
藤井俊光、岡田英理子、大島 茂、井津井
康浩、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿
沼 晴、東 正新、永石宇司、中村哲也、
長堀正和、荒木昭博、大塚和朗、朝比奈靖
浩、渡辺 守：免疫染色が診断の一助となっ
た肝内胆管癌小腸転移の 1 例.第 100 回 日
本消化器内視鏡学会関東地方会.東京.2015
年 6 月 14 日
- 13) 三代博之、井上恵美、藤井俊光、齊藤詠子、
井津井康浩、岡田英理子、大島 茂、松岡克
善、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿沼
晴、東 正新、大岡真也、永石宇司、中村哲
也、長堀正和、荒木昭博、大塚和朗、朝比奈
靖浩、渡辺 守：周期的な腹痛・発熱を主訴
とし MEFV 遺伝子変異を認めた否定型家族性
地中海熱の 1 例.第 334 回 日本消化器病学
会関東支部例会.東京.2015 年 5 月 23 日
- 14) 秋山慎太郎、藤井俊光、長堀正和、竹中健人、
齊藤詠子、大塚和朗、渡辺 守：高安動脈炎
に合併した潰瘍性大腸炎症例の検討.第 101
回 日本消化器病学会総会.仙台.2015 年 4 月
25 日
齊藤詠子、長堀正和、渡辺 守：難治性潰瘍性
大腸炎の適切な治療選択とは？ 難治性潰瘍性
大腸炎における免疫調節薬使用例の検討.第
101 回 日本消化器病学会総会.仙台.2015 年 4
月 25 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし